

第4回宇都宮市上下水道事業懇話会 議事録

■ 日 時

令和2年10月15日（木） 午後2時～午後3時

■ 会 場

宇都宮市上下水道局 5階大会議室

■ 出席者

- ・ 委 員：齊木眞理子委員，櫻井誠委員，寺島玄委員，
野澤克子委員，三宅徹治委員，室恵子委員（50音順）
- ・ 局 側：上下水道事業管理者，経営担当次長，技術担当次長，経営企画課長，
経営担当主幹，企業総務課長，サービスセンター所長，
工事受付センター所長，水道管理課長，水道建設課長，
下水道管理課長，下水道建設課長，生活排水課長，
技術監理室長，事務局職員

■ 傍聴者数

2名（いずれも記者）

■ 会議経過

1 開 会

2 懇 話

(1) 雨水貯留施設等設置促進に関する取組について

事務局より，資料に基づき説明

A 委 員： 雨水貯留タンクと浸透ますを設置しているが，水道代の節約や水たまりの解消など非常に助かっている。雨水貯留施設自体を知らない方が多いため，もっと PR すべきだと感じた。

職務代理者： どのようにして雨水貯留タンク等の情報を得たのか。

A 委 員： 広報紙で知り，良いなと思って設置した。

E 委 員： 事業者側の設置が広がっていないとのことだが，事業者の事業活動と雨水貯留施設の設置意識がうまくつながっていないのだと思う。最近の事業者は，企業経営において SDGs に取り組もうという意識が高い。雨水貯留施設設置等に取り組むことが，社会活動・社会課題の解決につながるという

う切り口で企業にアプローチすると、受け入れられる可能性があるだろう。

C 委員： 2つご指摘申し上げたい。1つ目は、メンテナンス面や設置後にどのような不都合があるかなど、ユーザーの声を集約して、広報紙やホームページで発信してほしい。モニター制度などがあれば、ランダムに意見を聴取できるので、ご検討いただきたい。2つ目は、LRT という大事業が進んでいる中、清原地区は大きな変貌を遂げられると思われる。街の新しい展開というまたとないチャンスを活かしていくことが重要だと考える。そのために、小学校等に雨水貯留施設を設置し、子どもたちに馴染んでもらうことや、駅東口などの公共施設において PR することが非常に重要である。設置促進につながり、公共建築物という社会資本を通じて PR していくことが重要である。

B 委員： 設置の申請件数が3倍に増えたというのは、データとしては大変優秀である。令和2年度から新たに始めた取組の成果なのか、今までやってきたことが令和2年度で爆発的に伸びたのか、伺いたい。

事務局： 設置した方に、どのように補助制度を知ったのか聞き取りにより確認しており、7月時点では、広報紙と自治会回覧が大きな割合を占めていた。自治会回覧については、これまで冠水しやすいところを中心に実施していたが、今回、補助対象地区の全域に行ったことが影響していると考えられる。

B 委員： コロナウイルス感染症と関連して、家で過ごす時間が長くなったことなどが影響しているのか。

事務局： 市広報紙に大きく掲載したタイミング、自治会回覧を回したタイミングが自粛期間の前だったため、市民の目に留まる機会が増えたと推測する。

B 委員： 意図してその時期に行ったのか。

事務局： 積極的に広報に取り組んだ時期と自粛期間が重なった。事業者に対する PR が滞ってしまった面もあるが、一般市民に対しては見てもらう機会が増えた。広報紙やミヤラジ出演は以前から行っているが、市街化区域全体を対象とした全自治会回覧は今年度初めて行った。また、事業者と建築関係機関への周知活動や CSR の企業認証項目の登録についても、今年度初めて行った取組である。

B 委員： 新しい取組が多かったのか。

事務局： 今年度から様々な取組をしている。資料に記載はないが、宇都宮市のタウン情報誌や、下野新聞社にも記事を掲載していただいている。更に、SNS などの広報媒体の活用も進めており、局のツイッターによる情報配信を予定しており、映像等を活用した広報も検討している。

E 委員： 設置者の意見だが、雨は降ったりやんだりを繰り返し、貯留タンクからオーバーフローすることもあるため、必要がなくても水を撒いて次の雨に備えなければならないといった問題点もある。

職務代理者： 雨水貯留施設設置に係る問題点なども示していただくと、設置してみようとするのではないかと考えるのではないかと。

E 委員： 以前の懇話会で議題に上がった田んぼダムについて、下野新聞の記事に「田んぼダムの貯水量が、計画を上回る貯水量を確保できた」とあったが、どのように管理しているかなど、解説していただきたい。

事務局： 田んぼダムについては、昨年度の台風19号の影響を踏まえ、効果的な溢水対策として先行して取り組んだ結果が記事となった。田んぼダムは、柵に高さが調整できる堰を設置するものと、柵のパイプを絞り込んで排出する水を絞り込むものと2種類あり、いずれかのもので田んぼの所有者にご協力いただいている。堰の調整に関しては、所管が農業企画課になるが、大規模な大雨予報がある際、あらかじめ堰を調整してもらうようにしていると聞いている。

E 委員： 資源の活用として非常に有効だと考える。

事務局： この取組については、新潟が先進的に進んでおり、現在、新潟大学の教授にご協力いただいて構想試案を作成し、農業部門と検討していると聞いている。

(2) 上下水道イメージアップ映像の取組等について

事務局より、資料に基づき説明

C 委員： 市役所や街中の公衆トイレ、駅前などの公共建造物に、水道について知りたい方を誘導するQRコードなど表示してはどうか。

E 委員： 宇都宮市の歴史などのパネルを作って展示し、そこにQRコードを表示してはどうか。宇都宮市の水道の発祥の地に表札等を立て、宣伝とQRコードを表示するという方法もある。

C 委員： 南図書館や文化会館などで行われている市主催の映画会で映像を流してはどうか。開始約30分前から入場できるので、その空き時間にPRすることは非常に効果的だと思う。

事務局： 本庁1階のモニターや、大通りのバス停で、イメージアップ映像短編をアトラダムに放映しているほか、オリオンスクエアでは、改修の完了に伴い10月よりスクリーンで放映している。図書館等でのPRについては、今後検討していく。

- 事務局： 今市浄水場では建設当初の管理棟などが見学できる施設となっている。現在は見学を中止しているが、見学再開後は、いただいたご意見を参考にPR手法を検討していきたい。
- B 委員： 今年度から新たに取り組んでいることが多いが、広告宣伝費は増えているのか。一般企業等ではイベント等を中止している分予算規模が減っているが、こういった取組を行っている分維持しているのか。
- 事務局： 前年度より横ばいもしくは増えている。
- B 委員： SNS等の発信もしているが、予算規模が前年度より2倍、3倍に増えているということではないのか。
- 事務局： そこまで増加していない。
- 職務代理者： イメージアップ事業は、映像製作や広告にお金が掛かるので、費用対効果を考えなければならない。
- B 委員： 説明を聞いている限りだと、取組に係る予算額は大幅に増えているようなイメージがあった。費用対効果については、来年以降結果が出てくるだろう。
- E 委員： 広報媒体として動画を使うという取組は良いが、イメージだけではなく、知りたい・知らせたい情報は何かを考え、動画を使って発信していくことも重要であると感じる。東京都の水道局が発信している広報広聴職員製作動画のように、宇都宮の水のPRができればおもしろいと思う。
- 事務局： ご紹介いただいた事例を参考にし、取り組んでいきたい。
- D 委員： 映画鑑賞会や集会などの前に流すと良い。スマホやSNS等で映像を見ることがない高齢者も目にする機会ができ、宇都宮の水に興味を持っていただけるだろう。
- 事務局： 齊木委員はSNS等をご覧になるか。
- A 委員： 見る機会はない。これだけ活動しているのなら、もっと多くの方が宇都宮の水のおいしさを知っても良いのではないか。安いペットボトル水が多く売られているが、宇都宮の水のおいしさを知れば、意識が変わり、宇都宮の水が売れるのではないか。もっとアピールしてほしい。
- 事務局： 泉水については、本来広告用ツールとして作成した経緯があり、現在は有料で販売もしているが、民間同様の販売というのは難しいと考える。
- 職務代理者： 映像を見た後に、さらに詳しく知りたいという希望はよくあるもの。より興味を持った方に対し、解説ページに行きやすい工夫があるとありがたいが、そういったものはあるのか。
- 事務局： 局ホームページとイメージアップ映像が相互にリンクした仕組みにしている。

事業管理者： 取水場や浄水工程などは、映像もしくはイラスト等でとして載せていないのか。

事務局： 解説ページを作成し、取水場や浄水工程とともに、宇都宮の水のおいしさや下水処理の重要性、歴史などを掲載している。

事業管理者： より一層工夫し、多くの人にとって分かりやすい解説ページにしていきたい。

職務代理者： 全て一度にはできないと思うが、今後の取組に活かしてほしい。

3 その他

(1) 7月（前回）開催中止に伴う影響について

B 委員： 前回の懇話会がコロナウイルス感染症の影響で中止になったが、事業に影響はあるか。

事務局： 事業運営上、影響はない。

(2) 次回以降の開催について

第5回懇話会開催日程 令和3年2月17日（水）開催予定

4 閉会